

終戦 70 年北海道・函館慰霊祭の旅



函館山つつじ山砲台跡地

愛知県神社庁（小串和夫庁長）では 6 月 24 日、「終戦 70 年北海道・函館慰霊祭の旅」を開催し、196 名が参加した。

県神社庁では、毎年国内外の戦地を訪ねて慰霊祭を斎行し、戦死者の慰霊と世界の平和を祈る旅を行っている。特に今年は終戦 70 周年のということもあり、北方において我が国を守らんと戦闘に斃れられた 24 万 5 千有余名の御霊とともに、終戦を迎えてなおソ連軍の来襲と抑留により犠牲

となられた 6 万有余名の御霊を慰めるべく、遙か満州・シベリアを臨む防衛拠点であった津軽要塞の 1 つ、函館山つつじ山砲台跡地において執り行われた。



慰霊祭(みたま慰めの舞)



慰霊祭

一行は、前日に中部国際空港を出発。当日の慰霊祭は、白井清夫県神社庁副庁長が斎主を務め、来賓として中村憲由樹北海道神社庁副庁長を迎えて斎行された。天候の心配される曇天ではあったが、祭典が進むにつれ薄日も差し始め、前方に函館湾、後方に津軽海峡を臨む海も北海ならではの紺碧に映え、静謐の清らかな空気の中、愛知から持参した日本酒や水、菓子や煙草などの庭積神饌が奉られ、神尾俊治県神社総代会副会長が慰霊の言葉の奉読に続き、愛知県護國神社（高羽伸浩宮司）の舞姫がみたま慰めの舞を奉納。参列者全員が県内から持参した神の玉串を奉り拝礼を行った後に、小串庁長が挨拶し、穏やかに祭典は終了した。